

自然再生事例

松浦川・アザメの瀬

1. 松浦川・アザメの瀬の概要

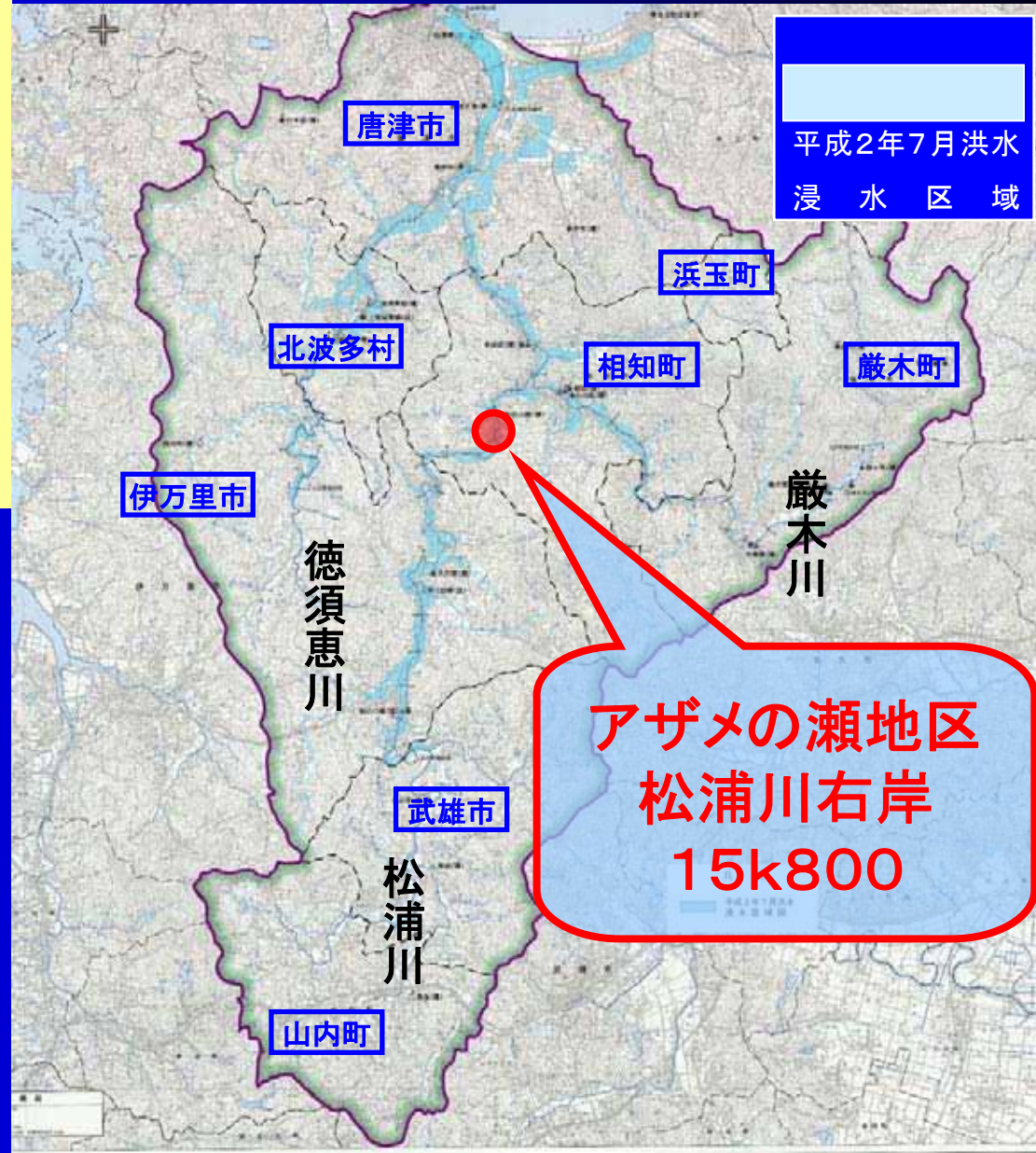
松浦川

流域面積：446km²

幹川流路延長：47km

流域市町村：3市4町1村

流域内人口：10万人

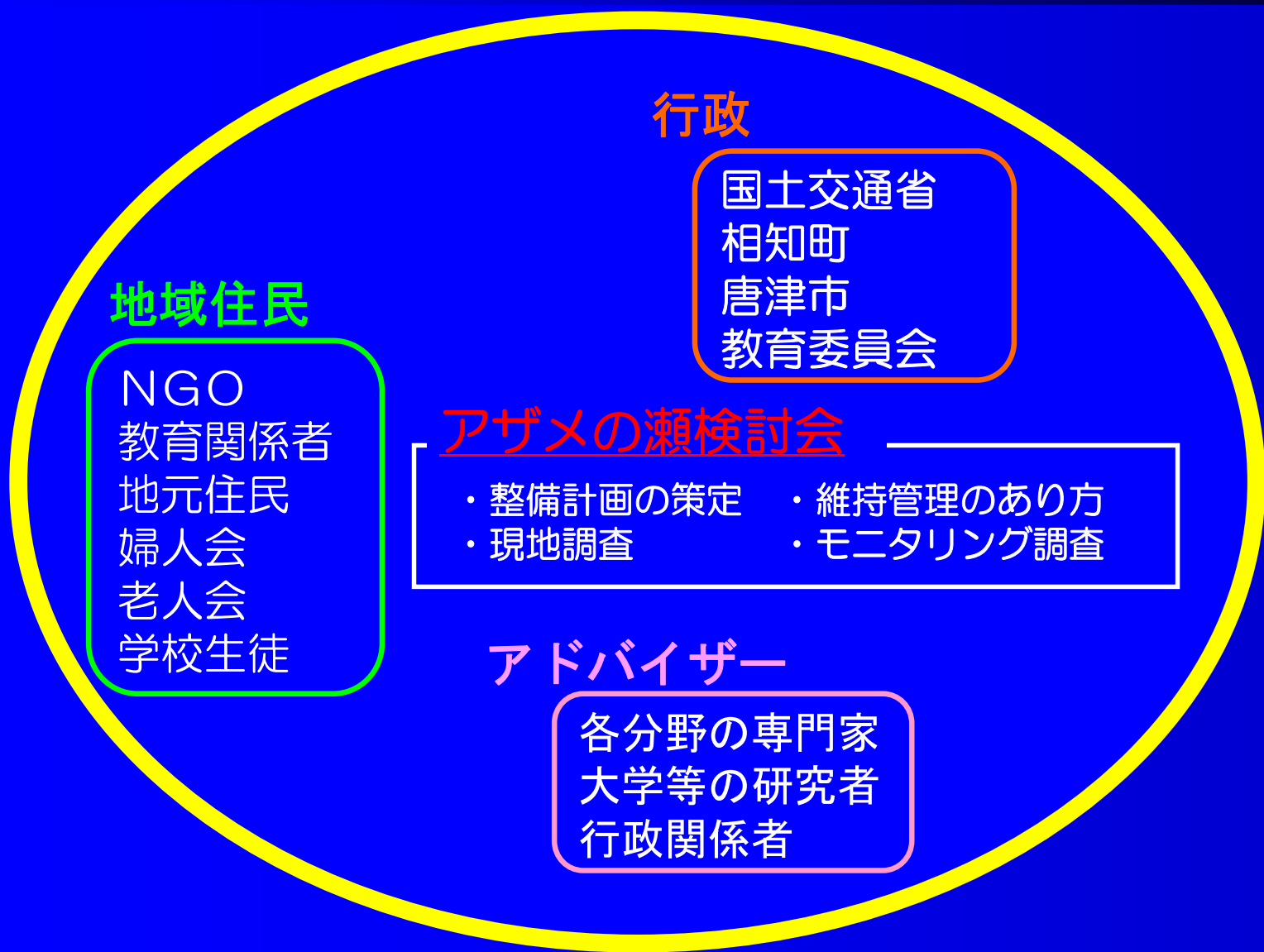


1. 松浦川・アザメの瀬の概要

- (1) 位置 : 松浦川本川15.8km右岸側
- (2) 対象地規模 : 面積約6ha、延長約1km、幅約400m
- (3) 事業費目 : 河川環境整備事業
- (4) 総事業費 : 約8億 (平成13年度～平成24年度)
- (5) 事業の進捗状況 : 平成17年度までに概ね施設整備完了



2. アザメの瀬検討会 (1) 構成



2. アザメの瀬検討会 (3) ルール

- メンバー非固定の自由参加
- 専門家はアドバイザーとして位置づけ
- 地元の幅広い知識を吸収する努力
- みんなで作り上げていく
- 「してくれ」ではなく、「しよう」が基本
- 繰り返し、話し合う
- 進め方も皆で考え、決める

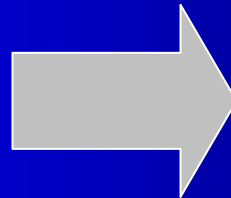
3. アザメの瀬・自然再生目標

松浦川流域で失われたもの

【昔】

流域内の氾濫平野 約12km²

旧河道 約2km²

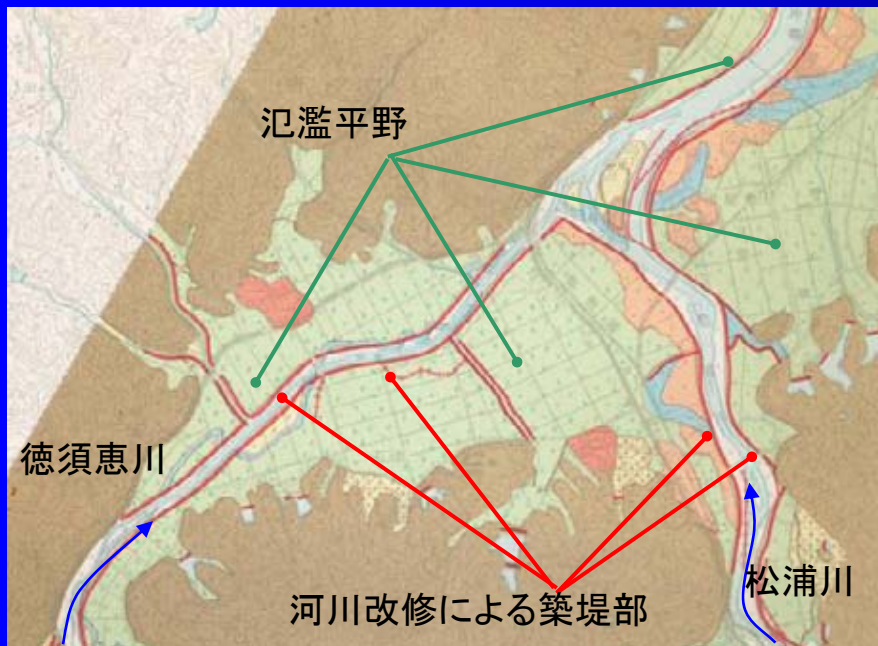


【現在】

流域内の氾濫平野 約1km²

旧河道 約0km²

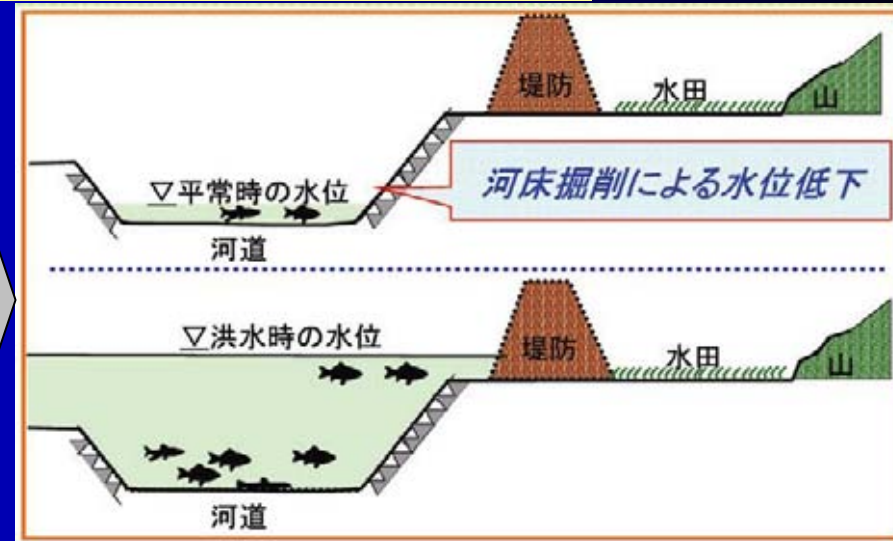
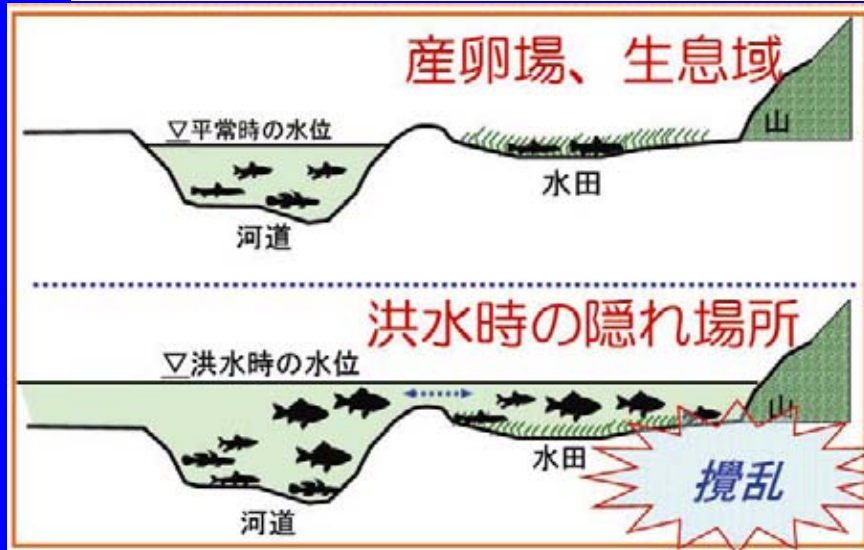
氾濫原的湿地環境が
約92%減少した



3. アザメの瀬・自然再生目標

① 河川の氾濫原的湿地を再生

氾濫原湿地機能の再生を図り、昔たくさんいたコイ、フナ、ドジョウ、トンボ

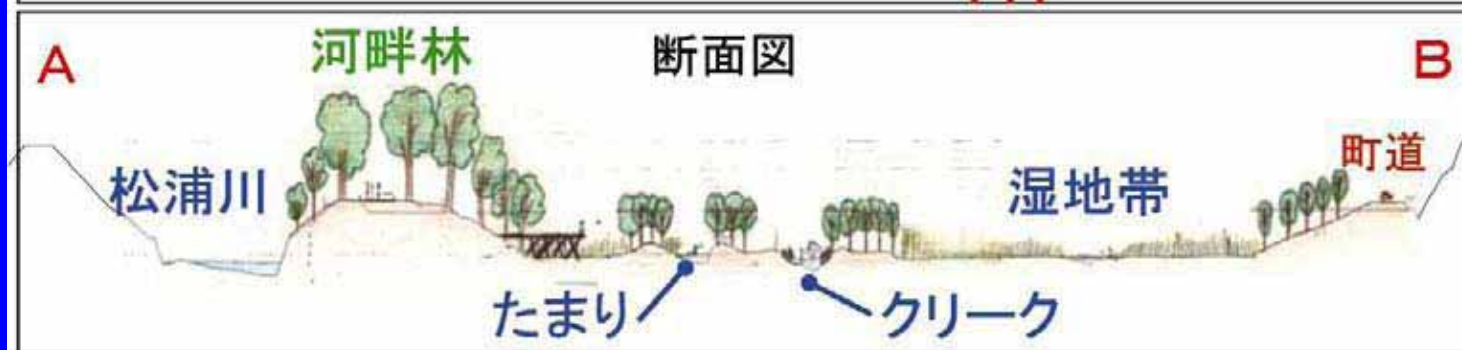
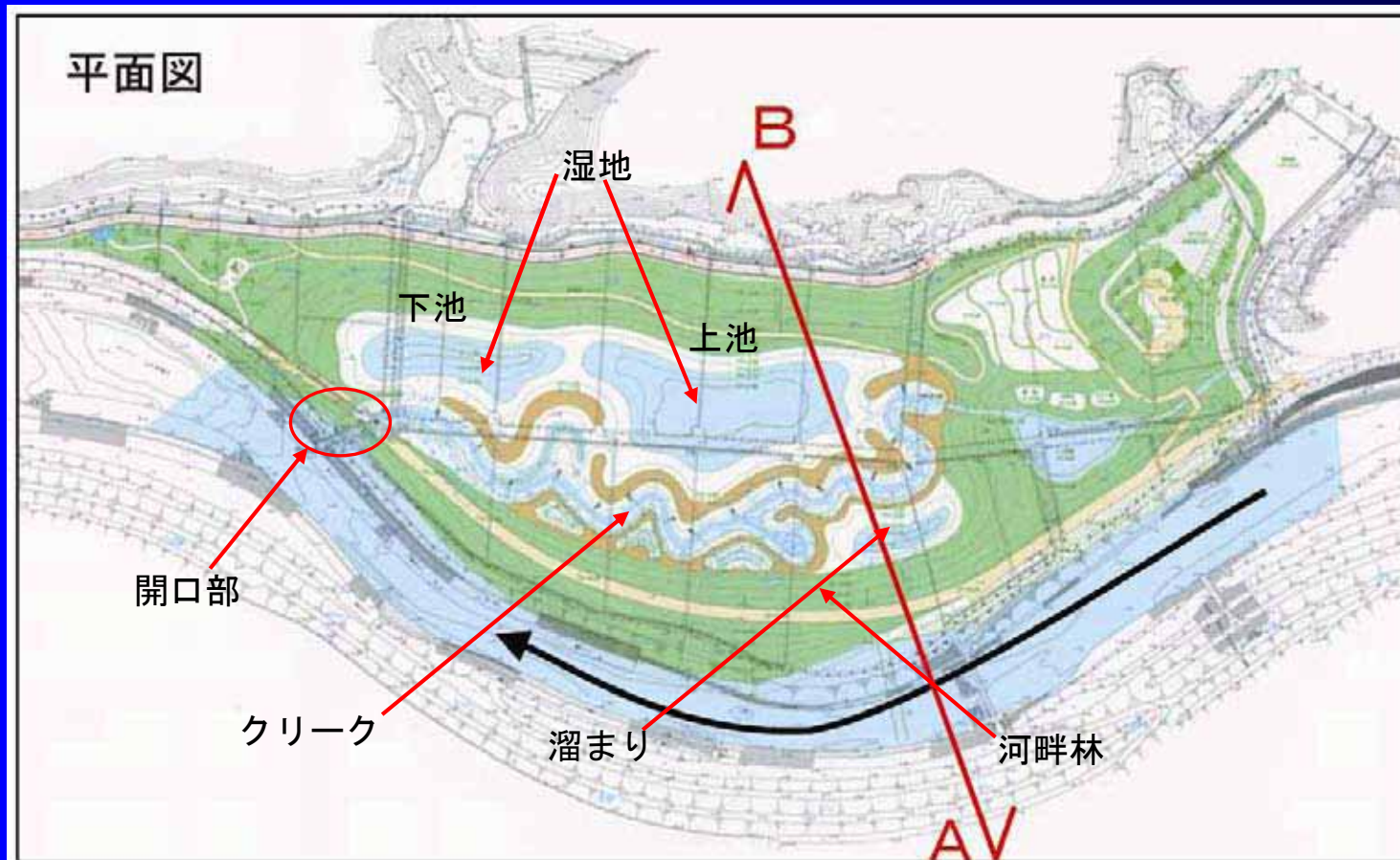


② 人と生物のふれあいの再生

湿地的環境に依存する生物と接する場として利用



4. 整備内容 (2) 整備イメージ



5. アザメの会

「皆で作りに上げていく」の精神から

市民の発案により、『アザメの会』が設立された

アザメの会の主な活動

- 「イダ嵐」、「堤がえし」等の風習に沿った学習活動の実施
- 小学生の環境学習の支援
- 追跡調査の実施（伝統漁法による魚類調査、シードバンク等）
- アザメの瀬の維持管理
- 学習センターの管理
- 外部への広報活動（広報誌作成、佐賀水会議でのポスターセッション等）

5. アザメの会の活動



老人会との合同会議を開催し、幅広く意見を集める



シードバンク調査などを主体的に実施

5. アザメの会の活動



環境学習活動、川遊び等の主催、現地での指導



環境学習の発表会の主催

6. 環境学習施設

施設の利用目的

- ①子供たちの環境学習
- ②市民の交流の場
- ③氾濫原的湿地についての研究
- ④河川技術者のための研修の場



7. アザメ新聞



アザメ新聞

平成14年4月10日発行 Vol. 3

アザメ新聞は和知町住居下地区で行われる自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業でどなたでも検討会に参加できます。
Vol. 2では現地見学会と懇話会の模様をお伝えしました。
さて、Vol. 3では第4回検討会及び代表者検討会での状況を紹介します。

「第4回検討会」開催！

2月1日に検討会を開催しました。
田園風景を大切に自然と共生した生活を体験できる場にする事や、松浦川水系の生き物が戻ってきて繁殖の拠点となるような場にする事を理念として提案しました。概ね理解していただいたようです。
また、今後の進め方として事務局から、7つ程度の分科会に分かれ、それぞれで話し合いを行い、全員が集まって発表しそれをまた分科会に持ち帰り意見を集約するという検討方式を提案しました。参加者からは「検討方式を議論する前に、ある程度の基本的な姿がみえるようなたたき台がほしい」との意見が出され、代表者を選出し代表者検討会を開催し、素案を作成することになりました。

“アザメの瀬自然再生事業の理念”（事務所から提出した案です）

アザメの瀬自然再生事業は、自然の中に人々の生活が溶け込んでいるような状態を目指していきたいと考えています。

1. 自然の中にある田園風景（昔の風景）
2. 魚・植物を捕って食べたり、遊んだり
3. 松浦川水系の普通に見られる生物の繁殖の拠点



検討会では、毎回多数の方々の参加があり、回を重ねる毎に白熱した議論が展開されています。
今回も住民の方からの提案により代表者検討会を開催する事になりました。

各分科会（案）として出しましたが、まだ合意にはいたっていません。

1. 運営班
・事業の計画をスムーズに進めるための手段を決定する
2. 生活文化班
・自然と共生していた暮らしの体験
3. 全体計画班
・全体の意見をまとめた配置計画立案
4. 学習班
・自然を利用した学習場として、どのようにあるべきかの提案
5. 展示班
・アザメの瀬にしかないような展示方法の提案
6. 農業班
・水系の一部としての復元の方法と管理
7. 環境調査班
・施設設計のための情報収集
・事業の評価
・環境教育のための調査



アザメ新聞

平成14年9月3日発行 Vol. 7

アザメ新聞は和知町住居下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業でどなたでも検討会に参加できます。
Vol. 6では第6回検討会での模様と現地魚類調査、ハビタットマップについてをお伝えしました。
さて、Vol. 7では8月22日の現地調査、8月26日の第8回検討会の模様をお伝えします。

地層調査実施！

8月22日にアザメの瀬において地層調査を行いました。この地層調査は、過去の土地利用の形態や地層に残された洪水の履歴など、堆積環境の変化を明らかにすることを目的としています。通常のボーリング調査ではコアが小さく面的に確認するのが容易ではありませんでした。今回実施の調査では面的に表面を掘え確認できることに最大の利点があります。その他、標本としても保存が可能です。ビクターセンター建設後の重要な展示資料になること間違いなし！



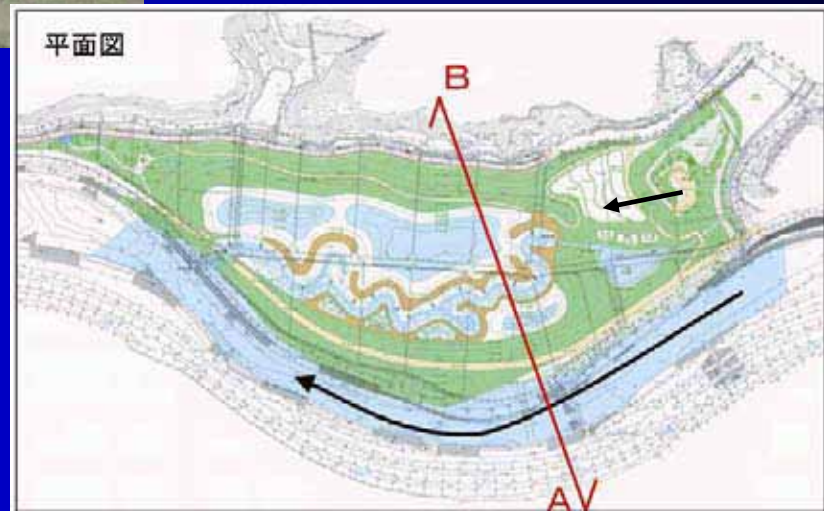
シードバンク調査のその後！



溜池からも貴重な植生が見つかったみたいです。

1~2mまでの土をまきだした所に水田によく見られる植生が約9種類出てきました。現在のところ、コナギ、タマガヤツリ、チョウジタデ、アゼナ、アメリカアゼナ、イボクサ、ヒデコ、ミズマツバ、アメリカタカサブロウなどがみついています。今後も調査を続け、色々な植生を観察したいと思います。

8. 現地撮影写真(1)



8. 現地撮影写真(2)



上池：昨年度完成

植生はまだ少ない

今後は人の手を入れながら
管理していく方針

下池：3年前に完成

植生はかなり回復している

人の手を入れず、また、人
入れない方針としている

8. 現地撮影写真(3)



湿地内のクリーク
周辺が湿地化している



本川からの流入部
本川水位の上昇に合わせて、
水が流入して来る

8. 現地撮影写真(4)



学習センター内

小学校2クラス（60人程度）
が入れる規模



学習センター

平屋の古民家風の外観
周辺景観と調和